

第2回鹿児島市文化芸術推進基本計画策定委員会 会議概要

日 時	令和2年12月23日（水） 15時～16時50分
場 所	鹿児島市役所東別館9階特別中会議室ほか
出席者	文化芸術推進基本計画策定委員会委員16名 事務局6名 委員： 酒井委員（委員長）、丸田委員（副委員長）、有村委員、宇都委員、瀧川委員、田中委員、水流委員、戸床委員、永井委員、永山委員、檜林委員、花柳委員、原田委員、牧島委員、吉村委員、米蔵委員 事務局： 市民局長、市民文化部長、文化振興課長、同課主幹 他2名
会 次 第	1 開 会 2 議 事 （1）文化芸術に関する市民意識調査中間報告 （2）本市の文化芸術に関する取組について（第2期文化薫る地域の魅力づくりプランに基づく取組など） （3）鹿児島市文化芸術推進基本計画骨子素案について 3 その他 4 閉 会
主な意見等	（○…委員、⇒…事務局） 2（1）文化芸術に関する市民意識調査中間報告 ○子育て世代と50歳代以降など世代間によってとらえ方が異なる。今後、分析を進める上で、担い手の育成を柱の一つとして掲げる場合は、子育て世代がどのように感じるかを見ていくのが必要。 ○市民が文化ゾーンの施設や歴史的建造物など自分達のまちにどのような文化施設があってどのような文化事業が行われているかをきちんと広めていくことが必要。 ○問21の市の文化芸術に関する事業の認知度に関連して予算の多い3つの事業を教えてください。また、これらの事業が文化振興課の事業か他課の事業か教えてください。 ⇒掲載されている事業のうち下の方の「市民アートフェアかごしま」以下は他課で所管する事業であり、予算の多い3つの事業については今すぐには分かりかねるが規模の大きなイベントでは「音とあかりの散歩道」「げいじゅつたいけん！かんまちあ」、他にはK C I Cの運営は比較的予算が大きいものになる。また詳細が分かったらお知らせしたい。 ○問4のその他の意見欄の「現代アート」について、「美術」の一つの分野なので入れることを検討いただきたい。 ○問6、問11の鑑賞と活動の有無を組み合わせ、①鑑賞も活動もした、②鑑賞したが活動していない、③鑑賞していないが活動した、④鑑賞も活動もしていないの4つの分類に細分化して、その人たちにどのように参加や鑑賞を促すかといった議論がいろいろなところだったので考察のところで参考していただけたらと思う。 ⇒集計方法について確認して検討結果をお知らせしたい。 ○文化芸術の個人に対する効果で一番多い回答が「楽しみを見いだす」だったが、文化芸術にはもっと一歩先の自己肯定感や個人を勇気づけるなど色々なものがある。文化芸術を通してそのような体験をしていただきたい。 ○問21の鹿児島市の取組について、「音とあかりの散歩道」や「げいじゅつたいけん！かんまちあ」、「TSUNAGU 和のせかい」の認知度が10%前後だったのが残念であり、もっと広まってほしいなと思ったがどのように受け止めているか伺いたい。 ⇒「音とあかりの散歩道」は7～8年くらい実施してきていて認知度があるかと思った

がそうでもなかったところであるが、参加者数も増えてきているので、より周知を高めていけば認知度も高まるかと考えている。「げいじゅつたいけん！かんまちあ」は、1回しか開催したことがない中で一定の認知度があるということはよかった面もある。「TSUNAGU 和のせかい」の認知度が低いというのは努力や様々な工夫をしていく必要があると感じている。

○県が文化芸術推進基本計画を令和3年度からスタートするという事でパブリックコメントを実施しているが県の方針と市の方針は一致しているか。県と文化面でもタイアップして実施したりすることも検討いただけたらと思う。

⇒県の計画も踏まえながら鹿児島市としての考え方を示していけたらよいかと考えている。

2 (2) 本市の文化芸術に関する取組について (第2期文化薫る地域の魅力づくりプランに基づく取組など)

○K C I Cの課題として更なる認知度の向上が必要ということだが、市民意識調査結果でも利用した人が0.1%と少なかったため周知についてさらに力を入れてほしい。

○総合計画の「文化芸術などに親しみ、身近に体験できる環境が整っている」と感じる市民の割合は54.3%だった。市民意識調査結果の問18で「本市の文化的環境に満足している」とした割合は、「どちらかといえば満足」も含めて33.4%であった。似たような設問で20%くらいの開きがあるがどのように考えているか。

⇒設問のニュアンスが異なったことで捉え方が違ったかもしれない。明確な理由ではないが、今回の調査では「文化的環境」ということで少しハードルを上げていることが可能性として考えられる。

○実行委員会で挙げられた課題について、課題というのは理想と現実のギャップ、目指すべき方向性があるからここは課題だということになる。どこが悪くて何を取り組む必要があるのか、その課題設定や認識、議論のところがもっと発展、検討する余地がある。今後議論して今後の発展を目指して議論、分析していただきたい。

⇒課題の認識が揃わなかった部分もあると思うため、今後部会員で集まる機会に議題にしてみたいと思う。

○今後議論する上で文化芸術に関する取組、イベントの参加者数等のデータを押さえておきたい。

○狂言の活動を行う中で育った子どもが学校で行っている事業に参加して子ども達に教えるという話がある。地域伝統芸能の取組も学校で実施しているところもあるため、文化芸術については、生涯学習や学校教育など広い分野で見えていく必要があると思った。

⇒まさに今回の計画は縦串の部分もありながら横串の部分もあり、観光や国際交流、福祉、地域振興などそういう要素も考えながら計画を作っていくものである。

2 (3) 鹿児島市文化芸術推進基本計画骨子素案について

※グループに分かれて意見交換

【グループ1まとめ】

○格安な演奏会、年齢制限のない演奏会、ホール等を気軽に利用できたらということでも敷居を低くできたらよいのではないか。

○文化ゾーンの文化的な整備や市全体の文化的な整備について予算、計画など大掛かりなものに長期的ビジョンが必要ではないか。

○海、桜島、島、山などの環境を有効活用したらよいのではないか。

○市民がどこに行けば何があるか、K C I Cにも繋がる部分があるが、県や国のものも含めて知るためのプランが必要ではないか。

○国文祭まではいかないがそのような事業をするためにこういう汗をかく方法があるというのを学ぶ場があればよいのではないか。

○ファクトの把握、あるもの探し、エンジョイ&本質に触れる、コラボ的なこと、企業の話もあった。

○公民館活動、コミュニティ協議会とコラボする事業、あと食文化、グランピング、グ

リーンファームなど色んなところと一緒にできるのではないかという案が出た。

○育成に関しては、もっと子ども中心、子どもが創る文化があればいいのではないか。

○SNSを活用した発信や外国人も取り込めるのではないかといった意見があった。

【グループ2まとめ】

○まずは継続できるという視点が大事なのではないだろうか。継続するためにはエネルギーもいるし、パワー、モチベーションもいる。また新しい切り口に挑んでいくことも必要である。

○文化は自己確立とか達成感につながることもある。文化というのは自分が自分らしくなることという基本を大切にしたい振興計画ができればいい。

○鹿児島には色々な地域があるので吉田、桜島、郡山、松元、喜入の5地域にも色々なコンテンツができればいいのではないか。

○各文化施設で活動はしているが教育委員会など繋がる部分がないといった課題があるため、その隙間を埋めるような活動ができればいい。

○子ども達へ確実に届けるには、教育現場へのアプローチや協働が重要

○情報発信は情報が集まるのを待っているだけでは不十分。自ら動いて地域や施設、団体等とつながり、情報を集めて発信していかなければならない。

○新たな価値を創造し、すでにある文化資源に光を当てつないでいくことが振興にもつながる。

○K C I Cのサイトには建築など興味深いコンテンツもある。学校教育において紙媒体は最強であるため、ダウンロードして学校で活用するなど利用を促したらいいのではないか。

【グループ3まとめ】

○着物を着るとするのは実はそれが当たり前じゃないという部分でちょっととっつきにくいことが考えられる。

○能や狂言があるが吉野の少年の例があるように、一人の人が守ることが大事である。

○海外にいった日本の留学生が日本の文化の説明ができないといったように、思い入れがないのは、小学校区であいご会を中心にいろいろやっても、それが伝統文化でなくまちづくりや生涯学習に力が入っているからで、伝統文化の面が、もしかしたら薄くなってしまっているのではないかという意見があった。

○回遊性という部分で維新ふるさと館のすぐ近くに示現流をやっているところがあるのでそこに繋いだりとか、そこから黎明館に行ったりとか、伝統文化が鹿児島にあるということ、沖縄にエイサーや空手があるように示せたらよと思う。

○地方の踊りでは田植、稲刈ということがベースになっていて、そこが食文化につながっているという意見があった。

【グループ4まとめ】

○日常と非日常、創造と鑑賞というところをどのように施策に落とし込んでいくかが話の中心になった。

○日常という部分では文化施設の役割をもう1回見直す中で発信したりコンテンツを充実させていったりしたらいいのではないか。

○目玉としてまちなか図書館があり、色々な人が出入りする場所なので文化やアートを取り入れて文化を感じられるようなところが大事なのではないか。

○アウトリーチでは小中学校で文化活動をするときに地域の方や保護者に来ていただいてもっと広げることが大事ではないか。

○恐らくこれから団塊世代が後期高齢者になって後10年、20年で上手く繋がらない可能性がある。地域の人口減少という危機感を共有、認識しながら地域の伝統文化を伝承し、次世代をつくっていくことが大切なのではないか。

○市民の声では文化芸術が困難だ、分からないという方が36%いることを考えるとユーザー目線に立って何ができるか考える必要があるのかなと思う。

○文化芸術は手段ではないというところは、それはそれで応えながらどう接していくかというのが大事かと思う。

○基本方針のところから5年10年の中では高齢化やコロナや不況、SDGsなどが入ってくるので、基本方針の中に開発という視点で新しいものをつくっていくと

というのが鹿児島県の気風として形になっていけばよいのかなと思う。

2（4）その他（今後のスケジュール）

○教育委員会の意見聴取後、策定委員会の各委員も計画案を見る機会が欲しい。